

2024年度 本部・施設事業報告書

社会福祉法人有隣社福祉会
風の子ども保育園

本部事業

- ・評議員会 2024年度定時評議員会 6月18日
- ・理事会 4回 5月11日、8月29日、12月7日、2025年3月15日
- ・施設監査 10月1日 (4名)
- ・区の巡回指導 10月7日・2025年2月18日 2回実施。(2名)

施設事業

I 児童の状況

月 歳児	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延べ(人)	備考
0	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	66	
1	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144	
2	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	支援児3人
3	16	16	16	16	16	16	16	15	15	15	15	16	188	
4	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	203	支援児1人
5	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228	支援児2人
合計(人)	84	84	84	84	84	84	85	84	84	84	84	84	1009	

職員の状況

2024.4.1

正規職員数(実働6時間以上)	人	契約職員数(実働6時間未満)	人
基準内保育士	9	保育補助(有)前4時間	2
充実・特例保育士	3	”(派遣職員)10-16	1
主任保育士	1	保育補助 前3.5~4時間	4
チーム保育加算	1	” 後4・3.5時間	2
基準外保育士	2	調理員 前4・5時間	2
固定出番保育士	(4)	” 後3・5時間	2
産休育休・病欠		用務員 後4時間	1
保育士計	16	” 夕1.5時間	2
看護師・栄養士・調理師	3	事務員 前4時間 後4時間	2
園長	1	理事長 池田 保育アドバイザー堀江	2
内再雇用	(1)	嘱託医 小児科・歯科	2
合計	20	合計	22

II 保育の内容

乳児 (0歳から2歳半まで)

- ・定員を0歳児6名、1歳児12名に変更した。0歳児は10月から6名揃う。0歳児のオムツは無料とし1歳児以上も「手ぶらオムツ」を利用した。「手ぶらエプロン、手口拭き」の利用者も増えている。
- ・愛着関係を土台に子どもの思いを受容すること、大人との応答的なやりとりを大切にしてきた。保育士間で連携を図りながら個々に合わせた保育に工夫を凝らした。

幼児 (2歳半から5歳児)

- ・子ども一人ひとりが「明日には達成できる」頑張り目標を見つけ楽しく元気に遊び、自主的、主体的に取り組む力をつけてきた。

- ・子どもが自ら挑戦、努力して獲得した発達課題を披露、みんなで成長を喜び合う場として行事を大切に、子どもにとって自然にできる方法を考え行った。保護者からは「子どもの成長を見ることができて良かった」という感想を頂いた。散歩の機会が減少していたが、5歳児の山登りは小さい頃からの積み重ねた力で頑張って歩いたが体力の低下も見られる。
- ・食事時大人も子どもも一緒に食べ、会話を楽しむ姿がある。
- ・♡マークの保育士を加配、安全に楽しく遊べるようにしている。
- ・縦割りグループはお母さん保育士中心に2名で保育。縦親中心に個々に寄り添いながら、楽しい生活を目指した。

III 健康及び安全

- 1 子どもの健康支援 子どもの健康及び安全の確保は子どもの生命の保持と健やかな生活が基本である。
 - ・乳児は登園時に検温、体調に変化がないか日々確認し、健康状態を把握した。園内で出ている感染症が保護者に分かるように掲示した。
 - ・嘱託医、縦親と連携して子どもの健康状態を保護者へ伝達した。
 - ・子ども達が楽しく日々の遊びの中で取り入れられる体操を行い、体幹を鍛える。
 - ・37.5℃以上の発熱児は3階の静養室に隔離、早めのお迎えと受診を勧めるなどの対応を行った。
 - ・園内では換気、手すり、玩具、テーブル、椅子等を含め適宜消毒を継続した。
- 2 食育の推進 食育は健康な生活の基本としての「食を営む力」を養うことに力を入れた。
 - ・自分で「好きなものを好きなだけ食べる」ことを大切に、卒園までには「苦手だったもの」が食べられるよう長い目で見守った。日々の食事の中で様々な食材や料理に触れ、食への興味・関心を育んだ。
 - ・和食中心の一汁三菜を基本とし、季節の食材や行事食、子どもの嗜好を取り入れ、楽しい給食時間となるように努めた。給食と保育の連携を図り、献立内容を三群表やひらがな表記の献立表でわかりやすく知らせる。屋上での収穫物を給食に取り入れる。食材の展示、調理保育等食育の充実を図った。
- 3 環境及び衛生管理並びに安全管理
 - ・睡眠中0歳児は5分、1・2歳児は10分、3～5歳児は15分間隔で呼吸チェック等事故防止マニュアルを厳守、絶えず換気して、事故防止と感染症拡大防止に努めた。
 - ・冬場は乳児室に加湿器のリースを行い、少しでも良い環境に配慮した。
 - ・怪我、事故の報告は速やかに行いヒヤリハット(50件)を起こし分析検討、再発防止に努めた。大人の不注意が多く、指導監査や安全巡回指導で受けた指摘を保育会議で話しあい改善に努めた。安全な保育のため子どもに声をかけてから動作を促すように指導を受け改善に努めた。
 - ・283件の怪我報告(通院7件)があった。(他児による78件、転んで58件、自分で33件、衝突25件、バランス崩す21件)子どもの行動を予測し、怪我を起こさない努力をする。
- 4 災害への備え
 - ・訓練を通して職員が主体的に行動できるよう努めたが、今後も誤食やプールの事故対応等改善に努める。
 - ・引き渡し訓練では「災害伝言ダイヤル171」を体験してからお迎えに来てもらった。今後も訓練を周知し、171の活用を定着させる。
 - ・備蓄品は使用期限の確認をし、食材は消費期限前に計画的に給食献立に取り入れて味に慣れるようにした。蓄電池の購入(558,000円)をし、備蓄を充実させた。

IV 子育て支援

- 1 安心して預けられる保育園をめざして
 - ・乳児懇談交流会、離乳食講習会、秋の幼児親子遠足懇談会、4.5歳児クラス別懇談会を実施し交流を図った。
 - ・子育てのパートナーとして卒園してからも継続的に支援を行っており、1年生の親睦会、小学生、中高生同窓会を実施した。
 - ・子ども家庭支援センターと連携して、縦親が中心となり育児困難家庭や外国人家庭のケアに努めた。
 - ・医療的ケアが必要な園児は看護師とともに保育した。

2 地域に開かれた保育園をめざして

- ・園見学、プレママ体験、保育体験は随時実施した。
 - ・土曜日の行事は竹馬・下駄作り、作品展、親子クッキング、AED心肺蘇生、初期消火訓練を実施。
 - ・平日、ベビーマッサージ、手作り玩具、健康相談、離乳食体験を実施。
 - ・情報誌を年間12回発行。掲示板掲示、家庭福祉員に配布し誕生会への参加があった。
在園向けに子育てミニ情報を発行した。
 - ・フードドライブを取り組んだ。年2回
 - ・板橋夏ボラの保育士体験、中高生の職場体験など74名の参加があった。リピーターも多く保育の仕事の大変さと楽しさ、子どもの成長に関わる喜びを感じていただけた。
- 3 苦情としてはなかったが保護者からの苦言が6件あった。丁寧に説明、対応していくことで了解された。子どもの言動や動きをキャッチし、一人ひとりに寄り添う保育を職員全員で確認した。

V サービスの質の向上をめざして

- ・保育指針と年間計画、組織図に基づいて全職員が目標をもって各々の場所で力を発揮、サービスの質の向上に努めた。

研修 園の保育理念、保育指針に基づく保育課程、保育内容の充実、課題や職員のキャリアパス等、計画を基に研修に取り組んだ。

保育サービス課18件、私立保育園園長会2件、総合健康推進財団6件、フェリシア子ども短期大学1件、日本ウェルフェアサービス協会3件、絆友会4件、東京保育専門学校1件、こころ福祉会1件、みんなぎ1件、東京家政大学1件。に参加。キャリアアップ研修は計画的に受講した。

新人研修や保育アドバイザー(堀江氏)の保育指導など職員の育成に力を入れてきた。職員間の連携、保育力の向上が課題であり引き続き取り組んでいく。

就学に向けてのお話(第六小学校校長)、危機管理研修(新保氏)、子育て講座(動画との付き合い方)、健康講座(依藤氏)、絵画指導(三村氏)、支援の必要な子の関わり方(米田氏)、加賀児童ホームとの意見交換、高島特別支援学校の巡回相談など今後もニーズに合わせた内容を検討していく。

自主的な研修が十分に組み込まなかったため、個人の目標を元に研修計画を立ててもらい発表の場をつくっていく。

VI 広報活動

- ・日程変更等メール、ホームページ、掲示でお知らせした。見やすく読んでもらえる記事に取り組んだ。
- ・園の生活が分かる内容で情報誌・掲示板に掲示、フォトフレーム、リアルタイムを積極的に活用した。写真販売は廃止。全園児の様子を年2回ホームページにあげて、閲覧、ダウンロードできるようにした。
- ・給食レシピや牧野氏のストレッチコラムなどミニ情報として子育てに役立つ情報をホームページにも掲載し提供した。
- ・毎月発行の園ニュースをホームページに掲載しペーパーレス化を図った。

VII 危機管理

- ・ヒヤリハットから学び、情報を共有して事故防止に努めた。今後も引き続き取り組んでいく。
- ・情報管理は保護者、関係者全員から誓約書を取り、パスワードを設定しているが不十分などところがある。
- ・書類紛失で専門機関に相談対応、区に報告し、保護者に謝罪した。書類は持ち出し厳禁、個人情報が入った資料は回収まで確認することを厳守徹底した。

VIII 施設整備について

- ・区の中規模改修補助金500,000円申請し、安全対策工事1階テラスの床、屋上の屋根改修を行った。(2,695,000円)配管洗浄(528,000円)、尿石削除工事(209,000円)を行った。
火災受信機の交換(781,220円)しリニューアルした。要支援児の区の補助金を得て、デュシマピラミッド(279,840円)、アドベンチャーマット(168,410円)等の遊具を購入し活用。遊びの充実に役立っている。

IX 職員処遇について

- ・ 16 名中（固定勤務 3 名）13 名の保育士が変則勤務担当、20000 円、10000 円、5000 円をとして支給、保育士間のチームワークを図ると共に子育て中の職員が働き続けられるよう引き続き配慮した。特殊業務手当は一律 8000 円とした。
- ・ 全職員に 3 月臨時手当・臨時特別手当（0.1）を支給した。
- ・ インテリアは新入保育士が担当、定額の改善手当をつけた。
- ・ 宿舍借上げ支援制度を 6 名が活用し職員の定着に繋がった。
- ・ 保育士の保育力、教育力が強く求められている中、働き方改革と保育の質の向上を共に進めていく工夫、努力を続ける必要がある。

X 決算について（別添）